

連絡船

北海道天売高等学校
平成29年3月2日発行



学校通信 第 7 号



置かれた場所で咲きなさい

学校長 上田 智史

立春を過ぎたあたりから、ここ天売島の風景は厳しい冬の表情から徐々に春の訪れを告げるような暖かな日差しが感じられる日が多くなりました。

過日、第59回卒業証書授与式をご来賓並びに保護者、地域の方々を多数お迎えし、挙行できましたことを、心よりお礼申し上げます。多くの方々に見守られながら卒業する天売島で生まれ育った好青年の二人の姿を見て、保護者の皆様のご苦労に心から敬意を表し、あらためて地域の方々の温かな愛情に包まれて晴れの日を迎えたことを共に喜びたいと思います。泉谷一貴君、野上千利君、卒業おめでとうございます。2人は諸先輩方と同様、働きながら厳しい環境に耐えて三年間勉学に励みました。職場で頑張っている姿を見たり、嬉しい評判をよく聞きました。仕事を終えての通学は決して楽ではなかったと思いますが、二人は力を合わせて高校生活を前向きに過ごしました。そのような姿を見て天売高校は無くてはならない地域の学校であるという気持ちを強くしました。これからは、札幌の専門学校で学び、将来それぞれが目指す道を歩むわけですが、良いことばかりではなく、思い通りにいかないこともあると思います。しかし、それが人生であり、私達は前を見て歩いていかなければならないのです。式の中で卒業生の2人に次の言葉を贈らせてもらいました。

「置かれた場所で咲きなさい」この言葉は、旭川出身でノートルダム清心女子大学の学長を長年に渡って勤めた渡辺和子さんの著書のタイトルでもあります。30代半ばで、思いがけず岡山に派遣され、若くして大学学長に任命されて、心乱れることも多かった時に一人の宣教師が短い英語の詩を手渡してくれたのです。その詩が「置かれた場所で咲きなさい」というものでした。

咲くということは、仕方がないと諦めることではなく、笑顔で生き、周囲の人々も幸せにすることなのです。置かれたところこそが、今のあなたの居場所なのです。置かれたところで自分らしく生きていれば、必ず見守ってくださる方がいる。

どうしても咲けない日があります。雨風が強い時、日照り続きで咲けない日、そんな時には無理に咲かなくてもいい。その代わりに、根を下へ下へ降ろして、根を張るのです。次に咲く花が、より大きく、美しいものとなるために。

二人に贈るこの言葉は、私自身へ常日頃言い聞かせている言葉でもあります。渡辺和子さんは「時間の使い方は、そのまま命の使い方になる」とも言っています。限られた人生を希望を持ち続けて歩いていくこと。そして、辛いときは仲間を頼って欲しい。天売高校で出会った仲間とその絆を大切にしたいと思っています。あなた方の生まれ育った天売島はいつまでもあなた方の故郷です。2人が最上級生としてまとめてくれた平成28年度は、3名の新入生を迎えて充実した教育活動が展開されました。多くの島民の方に支えられ実施した天売学や水産実習、全道大会へ進出した定通体連、感動の天高ソーランで大いに盛り上がりを見せた天高祭、生活体験発表大会や水産クラブ研究発表大会など、いつも活動の中心には2人がいました。これらの活躍は、必ずや後輩達が引き継いでくれるものと信じています。今度は卒業生OBとして天売高校を応援してください。

終わりに、本校の教育活動にご理解とご支援をいただいております教育振興会、同窓会、PTAの皆様をはじめとする地域の方々のご厚情に感謝申し上げます、卒業の報告といたします。



体協バドミントン・卓球・ミニバレー大会

今年も多くの方が参加しました！

11月19日に体協バドミントン大会、12月17日に体協卓球大会、1月22日に体協ミニバレー大会が開催されました。今年度も多くの島民の方が参加し、どのチームも優勝目指して全力でプレーしていました。

圧倒的な劣勢からの大逆転劇や中学生が大人に勝つ試合等、見ごたえのある熱戦も多く見られ、会場全体が大いに盛り上がりました。どの大会も白熱した試合が繰り広げられた結果、バドミントン大会は小中学校教員チーム、卓球大会、ミニバレー大会は愛好会Aチームの優勝となりました。



卒業生からのメッセージ

泉谷 一貴

高校に入学したと思えばいつの間にか卒業の年になってしまいました。そう感じるほど高校生活は毎日が濃く、充実していました。

天売高校では普通科なのに水産の授業をしたり、生徒だけで行事を創ることがあったり、先生と1対1で勉強したりと他の高校ではできない体験をさせてもらいました。辛くて投げ出たくなることもたくさんあったけど、その分楽しいこともたくさんありました。ここで経験したことは一生の思い出です。少し大袈裟かもしれないけど、天売高校で経験したことすべてはこれからの人生の中で生きていく力になると思います。絶対にこの経験を忘れず、夢に向かって努力していきたいです。これからもそう思わせてくれる天売高校が続いてほしいと願っています。

少人数ということもあり、行事などはいつも島民の方々の協力がなければ創り上げることはできませんでした。これまでお世話になったみなさんには感謝の気持ちでいっぱいです。本当に今までありがとうございました。



野上 千利

3年前に入学して、あっという間に卒業を迎えることになりました。3年間の高校生活では多くのことを学ぶことができました。高校に入る前から働きながら学ぶということは大変だと思っていましたが、実際に体験すると予想以上に辛く、慣れないうちは体力的にも精神的にもかなり疲れました。ただ、毎日のちょっとした出来事で少しずつ成長していき、楽しいと感じるようになりました。部活もいつも楽しみにしていて、3年間でとても成長することができました。部長という立場を経験して、技術・メンタルだけでなく、後輩への指示力・指導力が身についたと思います。生徒会長も経験し、みんなの意見をまとめたり、様々な場所で挨拶をして、人前での恥ずかしさがなくなり、またコミュニケーション力がつきました。天売高校で学び身につけたことを糧に、不安の多い新生活を乗り切りたいと思います。



卒業おめでとう

卒業生担任

鈴木 祥平

泉谷一貴くん、野上千利くん、そして保護者の皆様、ご卒業おめでとうございます。また、2名の学校生活を様々な面で支えてくださった保護者、地域の皆様に厚くお礼申し上げます。私は3年間担任をさせていただき、2名がこうして卒業を迎え、新しい世界へ旅立っていくことを大変嬉しく思います。

一貴くんと千利くんは、それぞれ音楽の専門学校、デザインの専門学校に進学しますが、専門的な知識や技術を身につけ、自身の長所をさらに伸ばしていくことを期待しています。この先も様々な困難や試練に直面することがあるかもしれませんが、しかし3年間働きながら学ぶという高校生活を送ったことに自信を持って、乗り越えていってほしいと思います。

2名は本当に高い能力を持っており、天高祭や定通体連などで遺憾なく発揮してきました。これからも自身の可能性を信じて未来を切り開き、夢の実現に向かってまい進してほしいと思います。



校内レク・球技大会

チーム戦盛り上がりました

12月21日(水)に校内レク・第2回球技大会が行われました。クリスマス前ということで、校内レクはプレゼント交換にはじまり、生徒が考えたクイズや定番SHOWで盛り上がりました。プレゼントを何にするかはおおいに悩むところですが、それも楽しみの1つです。その後の球技大会はバスケットボールとドッジボールを行いました。

生徒と教員混成の2チームによる対決は、プレゼント交換を除いたクイズやゲーム、球技の累計ポイントの多いほうが勝ち。途中までポイントが拮抗し、球技大会は皆汗だくになりながらプレーしました。

今年度は2年生が欠学年のため、企画・運営は1年生の3人が担当しましたが、その頑張りのおかげで生徒・教員全員が楽しめるいい1日となりました。



学校開放講座「オリジナル仕掛けを作ろう」

今回は学校開放講座「オリジナル仕掛けを作ろう」でブラーを使ったカレイ釣りの仕掛け製作を行いました。9名が参加してくれて、カレイ釣りの基礎知識から仕掛け製作まで一生懸命に取り組んでくれました。ブラーにそれぞれが思い思いの装飾品をとりつけ、世界に一つしかないオリジナル仕掛けが完成しました。天売島は四方が海に囲まれた魚天国です。今回作成したオリジナル仕掛けでぜひ大物を釣り上げてみてください。今回の開放講座をきっかけにより一層釣りに興味を抱いてくれればと思います。

